

社会資本総合整備計画

安曇野水辺の里地区都市再生整備計画

平成 29 年 7 月 24 日

長野県安曇野市

社会資本総合整備計画

平成29年7月24日

計画の名称	安曇野水辺の里地区都市再生整備計画										重点配分対象の該当						
計画の期間	平成26年度～平成30年度（5年間）					交付対象	安曇野市										
計画の目標	<p>大目標：安曇野市の財産である良好な自然環境を活用し活力あるまちづくりを目指します。 小目標①：安曇野を体感し地域資源の価値や暮らしの豊かさを来訪者に伝えます。 小目標②：既存商店街の空間整備を行い、来訪者の回遊性を高め活力あるまちづくりを図ります。</p>																
計画の成果目標（定量的指標）	<p>市の観光拠点の玄関口である穂高駅と、東西の観光地である御法田、穂高有明の歩行者・自転車の総交通量を現況の4,268人（H26）から4,700人（H30）に増加させる。 穂高駅前を観光地に相応しい景観に整備することにより、駅前の店舗数を現況の90店のまま維持する。</p>																
定量的指標の定義及び算定式											定量的指標の現況値及び目標値		備考				
											当初現況値 (H26当初)	中間目標値 (H28末)	最終目標値 (H30末)				
	穂高駅・御法田・穂高有明の歩行者・自転車の総交通量（人/12h）										4,268	4,300	4,700				
	地区内(穂高駅前)の店舗数（店）										90	90	90				
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	1,604.0	百万円	A	1,604.0	百万円 (提案258.0)	B	0	百万円	C	0.0	百万円	D	0	百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	19.7%
交付対象事業																	
A 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H26	H27	H28	H29	H30				
1-A-1	都市再生	一般	安曇野市	直接	安曇野市	安曇野水辺の里地区都市再生整備計画	計画区域1,200ha 公園、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、地域創造支援事業、事業活用調査	安曇野市						1,604.0			
													合計	1604.0			
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H26	H27	H28	H29	H30				
													合計				
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考		
									H26	H27	H28	H29	H30				
													合計				
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考		
									H26	H27	H28	H29	H30				
													合計				
番号	一体的に実施することにより期待される効果																備考

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30
配分額 (a)	55	62	152		
計画別流用 増△減額 (b)					
交付額 (c=a+b)	55	62	152		
前年度からの繰越額 (d)					
支払済額 (e)	55	62	86		
翌年度繰越額 (f)			66		
うち未契約繰越額 (g)					
不用額 (h = c+d-e-f)					
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))					
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由					

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

都市再生整備計画

あづみのみずべ さとちく
安曇野水辺の里地区

ながの あづみの
長野県 安曇野市

平成29年7月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	安曇野市	地区名	安曇野 水辺の里 地区	面積	1200 ha
計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 30 年度				

目標

- 大目標: 安曇野市の財産である良好な自然環境を活用し活力あるまちづくりを目指します。
 小目標①: 安曇野を体感し地域資源の価値や暮らしの豊かさを来訪者に伝えます。
 小目標②: 既存商店街の空間整備を行い、来訪者の回遊性を高め活力あるまちづくりを図ります。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

安曇野市は、平成17年10月1日に、豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が合併し市政を施行しました。
 安曇野市の人口は増加傾向にありますが、今後は全国の動向と同じく減少に転じていくことが予想されています。活力あるまちづくりのためには、定住人口が減少するなかでは、観光による交流人口の増加を拡大させ、人口減少による影響を軽減させていくことが求められています。
 穂高駅を中心とした一体は、昭和33年に街路網決定公示を受け街路整備を行いました。昭和51年に用途地域設定により近隣商業地域として駅前周辺を指定し基盤整備を行ってきました。
 現在、穂高駅は安曇野市の観光の玄関口として機能しており、名古屋や東京から特急を利用する来訪者は、松本駅で大糸線に乗り換え安曇野市に入ります。また、新幹線からのアクセスは長野駅から篠ノ井線に乗り換え明科駅の利用となります。
 長野県の観光地利用者統計調査によると平成23年の安曇野市の観光地利用者延数は、約425万人で増加傾向にあります。

課題

- ・来訪者が安曇野の自然を体感できるなど、地域の特性を生かした拠点整備が必要である。
- ・観光施設見学や自然観賞、散策などを目的とする観光利用者のニーズに応える安全で快適な歩道や自転車道が不足。
- ・来訪者の多くは通過型の観光形態であることから、少しでも長く滞在していただくための拠点整備が必要。
- ・穂高駅周辺の既存商店街における来客者の減少と空き店舗の増加。
- ・商業地の景観形成や、地域の歴史・文化・史跡などの地域資源を有機的に結びつけ、商業施設との回遊性を高める基盤整備が必要。

将来ビジョン(中長期)

■第1次安曇野市総合計画 後期基本計画(H25.3)
 【将来都市像】北アルプスに生まれ 共に響き合う 田園産業都市 安曇野
 【分野別基本方針】①安全・安心・快適なまちの形成 ②豊かな産業のあるまちの形成
 【施策体系】①利便性の高いまち ②活力ある商工観光業を振興するまち

■安曇野市都市計画マスタープラン(H22.11)
 【目標】安曇野の豊かな歴史や文化、自然環境・景観を守り、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れた田園都市づくり
 【まちづくりの方針】① 良好な住環境の形勢・育成 ② 商工業・観光の振興と育成
 <穂高市街> 商業・観光の拠点として歴史的・文化的資源を生かした市街

■安曇野市観光振興ビジョン(H25.3)
 【目標】安曇野暮らしをまもる ~自然との共生~
 【主要施策】自然資源の活用 自然資源を活用し、自然と共生した安曇野暮らしを伝える観光の仕組みを構築する。(P45)
 親水空間の管理・整備

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
穂高駅・御法田・穂高有明の歩行者・自転車の総交通量	人/12h	休日における穂高駅入口交差点の歩行者交通量を増加させ賑わいを創出する。	穂高駅前の空間整備を行うことで、安曇野市観光の玄関口としての活性化を図る。	4268	4700
地区内(穂高駅前)の店舗数	店	県道塚原穂高停車場線、穂高停車場線及び市道穂高2級22号線沿い店舗数を維持することで、賑わいのある市街地の形成を図	駅前通りの空間整備を行うことで、来訪者が立ち寄りやすい環境を整え、空き店舗になることを防ぎ活力あるまちづくりにつなげる。	90	90

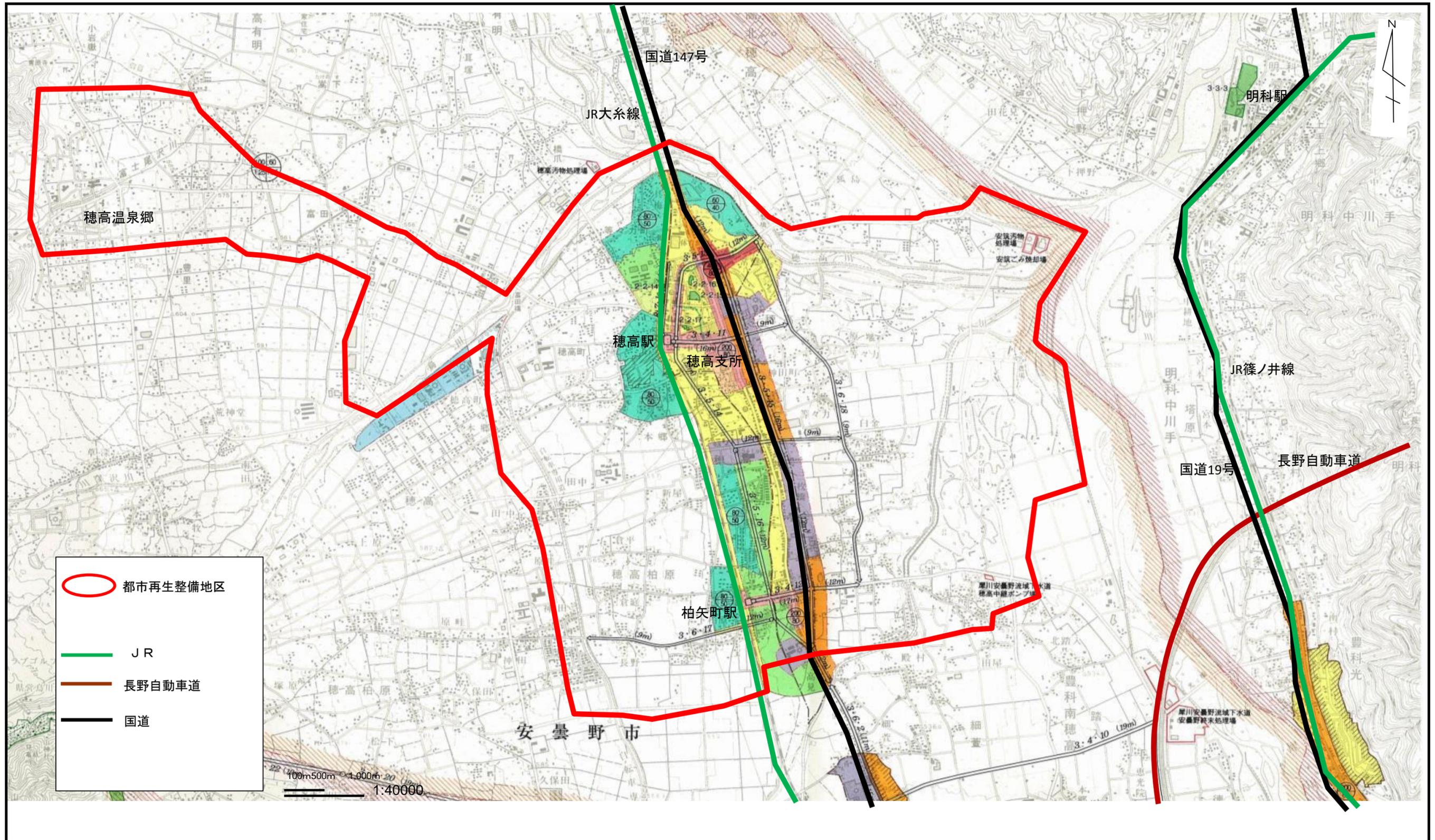
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【安曇野を体感し地域資源の価値や暮らしの豊かさを来訪者に伝えます。】</p> <p>○親水空間を「水の駅」と位置づけ、「水」を感じる空間の拠点施設として整備し、ネットワーク化することで来訪者の満足度を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道や散策路等を整備し、水の恵みを感じる空間を演出する。 ・水の駅間を散策やサイクリングなど、歩くスピードで体感しネットワーク化できるような基盤整備を行なう。 <p>○北アルプス山麓で、暮らすような楽しみ方を提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田園と山岳との中間に位置する西山エリアは、原風景を残すエリアであり、立ち寄りポイントとして整備し、安曇野の魅力を発信すると共に来訪者の満足度を高め再来訪へ誘導する。 ・山岳観光のハブ的機能を整備することにより、乗合交通による環境への付加軽減を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <p>公園事業：しゃくなげ公園 公園事業：穂高公園 地域生活基盤施設：情報案内板 地域生活基盤施設：駐車場</p> <p>【提案事業】</p> <p>地域創造支援事業：安曇野の里 地域創造支援事業：しゃくなげ公園 地域創造支援事業：穂高公園 事業活用調査：しゃくなげ公園活用調査</p>
<p>【既存商店街の空間整備を行い、来訪者の回遊性を高める。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂高駅周辺の既存商店街に来訪者の足を向けるため、穂高駅を中心とした快適な空間を整備し、来訪者の回遊性を高め、既存商店街の活性化を図る。 ・商業地の景観形成や、地域の歴史・文化・史跡などの地域資源を有機的に結びつけ、商業施設との回遊性を高める基盤整備。 	<p>【基幹事業】</p> <p>高質空間形成施設：県道塚原穂高停車場線（駅前広場） 高質空間形成施設：県道塚原穂高停車場線 高質空間形成施設：市道穂高2級22号線 高質空間形成施設：県道穂高停車場線</p> <p>【関連事業】</p> <p>温浴施設 市道穂高1級1号線、1級2号線</p>
<p>その他</p> <p>○歩いて楽しいまちづくり基本計画 安曇野をひとつのフィールドとして捉え、ここを舞台にして市民が主役となって各所にある魅力をつなぎ、活かしていくためのひとつの方法として「歩いて楽しむ」事に着眼した計画。</p> <p>○あづみ野やまびこ大規模自転車道（あづみ野やまびこ自転車道） 市内には長野県道441号穂高松本塩尻自転車道線、通称「あづみ野やまびこ大規模自転車道（あづみ野やまびこ自転車道）」の起点があり松本市を經由し塩尻市までの自転車専用道が整備されています。比較的起伏の少ないコースで、老若男女を問わず利用者には好評である。</p> <p>○安曇野市観光ビジョンの策定 第1次安曇野市総合計画で定めた分野別基本方針「豊かな産業のあるまちの形成」の実現に向けた観光振興に関する個別計画として平成25年3月に策定された計画です。 計画では、来訪者に一番伝えたいこととして、地域住民が自然と共生し、農のある景観と地産地消による豊かな食生活、文化や芸術に触れ、みんなで協力し合って暮らしていくという安曇野らしい豊かな暮らしづくりです。観光関連事業者だけが取り組むものでなく、市民や農林漁業者など安曇野で暮らす人と訪れる人が協働して「安曇野暮らし」を実践します。</p>	

都市再生整備計画の区域

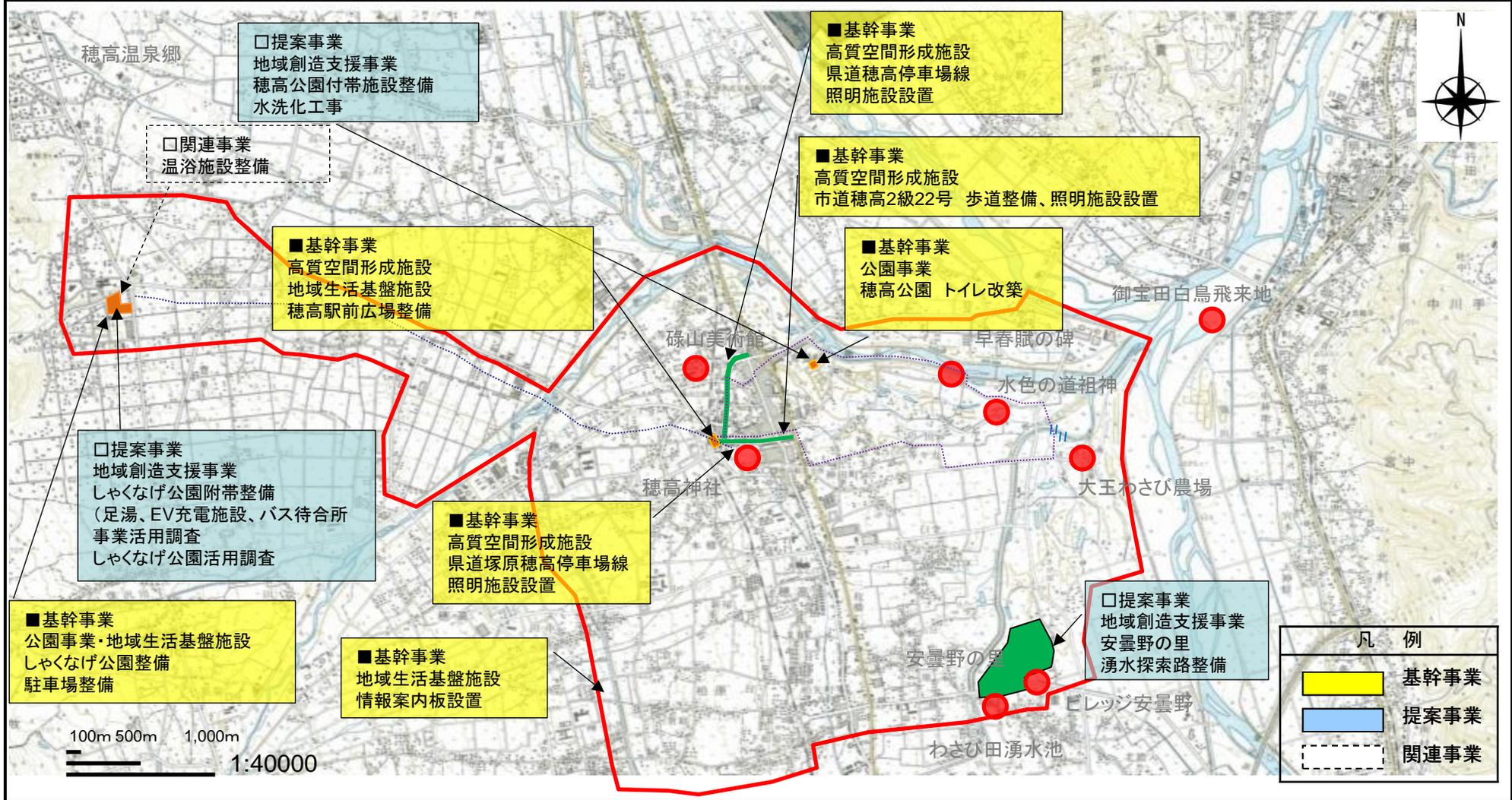
安曇野水辺の里地区(長野県安曇野市)

面積	1200 ha	区域	安曇野市豊科南穂高、穂高有明、穂高北穂高、穂高牧、穂高、穂高柏原
----	---------	----	----------------------------------



安曇野水辺の里地区(長野県安曇野市) 整備方針概要図

目標 安曇野市の財産である良好な自然環境を活用し活力あるまちづくりを目指します。 ①安曇野を体感し地域資源の価値や暮らしの豊かさを来訪者に伝えます。 ②既存商店街の空間整備を行い、来訪者の回遊性を高め活力あるまちづくりを図ります。	代表的な指標	穂高駅・御法田・有明の歩行者・自転車の総交通量 (人/12h)	4268 (平成24年度) → 4700 (平成30年度)
		穂高駅前の店舗数 (店)	90 (平成24年度) → 90 (平成30年度)



社会資本整備総合交付金チェックシート(例)

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称:安曇野水辺の里地区

事業主体名:安曇野市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	✓
2)上位計画等と整合性が確保されている。	✓
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	✓
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	✓
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	✓
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	✓
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	✓
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	✓
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	✓
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	✓
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	✓
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	✓
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	✓
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	✓
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	✓
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	-
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	✓